担当：阿部小涼（あべこすず）
法文研究棟 331 室
課題提出：kosuzu@eve.u-ryukyu.ac.jp

■4 月 25 日
（前回の積み残し）
新しい社会運動とはなにか=この人たちはいったい何をやっているのか？
[映像資料]
-I.N.B. -History 1999-2006 illcommonz
[http://www.youtube.com/watch?v=OBABeVtB7ek&feature=related]
-CLOWN ARMY TALKS ABOUT BLACK BLOC (w/Japanese subtitle)
[http://www.youtube.com/watch?v=7tM8jM5vPDg]

＜労働＞
（2）自由と生存！イマドキの労働運動

■A Day without Immigrants 移民のいない日
「アメリカで 100 万人の抗議行動」（英 BBC 制作／NHK「BS きょうの世界」2007 年 5 月 2 日で放映／6 分）
「移民のいない一日」(Democracy Now! Japan 版 3 分) "Over 1.5 Million March for Immigrant Rights in One of Largest Days of Protest in U.S. History," *Democracy Now!* May 02, 2006.
[http://www.democracynow.org/2006/5/2/over_1_5_million_march_for]
May Day 07 Immigrant Rights March Chicago (05'38)
[http://www.youtube.com/watch?v=5_eiSXYDXlk]

-参考：映画"A Day Without a Mexican" (USA/ 20004)

■Justice for Janitor ジャニターに正義を！
「市民的不服従：ロサンジェルス、ホテル労働者の闘い」（制作・著作　ビデオ塾　2005/12 分）

全米サーヴィス従業員組合(SEIU)がロサンゼルスで行った「ジャニターに正義を！」のキャンペーンは、過去 20 年間において、ラティーノ労働者を巻き込んで最も成功した、大規模な組織化キャンペーンであった。そのようなものとして、この運動は意義深い強さを示すとともに、欠陥をも見せた。それらを理解することは、ラティーノ労働者に働きかけて、彼彼女らが組合を自分たちのものとして、組合をリードしていけるようにする組合の取り組みを改善していくために、極めて重要である。SEIU が J for J のキャンペーンを開始したのは 1980 年代末であった。当時成長してきたビル清掃サーヴィス請負業者の従業員として、ロサンゼルスのオフィス・ビルを夜間に清掃していた主に中米、メキシコ人労働者を組織しようとしたのである。全国労働関係局が設ける少なからぬハードルに応じて選挙キャンペーンを組織してみても、それが成功する見通しは少ないことが分かっていたので、オルグたちは直接行動、公の力、攻撃的な労働者動員、コミュニティの支持、法律戦術、対企業戦略などによる戦略を編み出した。･･･

ジャニターたちの戦術は、移民労働者たちの戦闘性を頼りにしていた。ローカル 399 のオルグたちは、移民労働者を再三にわたって動員し、街頭に進出させて協約を勝ち取ったのである。オルグたちが当てにしたのは、エルサルバドルやグアテマラでテロに堂々と立ち向かった労働者たちの伝統であり、体験であった。オルグたちは、社会の富の公正な分け前を要求する権利があっても、それを手にするためには闘わなければならないということを、すでにそれをメキシコで子どもの頃に学んでいた労働者たちに訴えかけたのである。

組合員であるだけで、あるいはストライキに参加しただけで撃たれるような国から来た者にとっては、仕事を首になるくらいのことではへこたれないだろう。中米からの移民たちは、私たちよりもはるかに戦闘的な、組合員としての歴史を持っている。労働者が戦闘的になればなるほど、組合はより多くのことをなしうるのだ。

そのような体験からオルグたちが学ぼうと決意したことが、J for J キャンペーンのエネルギーと感動的な成功に大いに寄与したのである。

J for J キャンペーンは、創造的な組織化、コミュニティとの本当の提携、とりわけ移民組織の中でのその真剣な追求、組織化の成功の結果として、組合が多様な侵入組合員を包括していくプランの必要なことなど、多くの事柄を教えている。[1]

🎥Justice for Janitors actions (1990 through 2006)　(08'33)
[http://www.youtube.com/watch?v=WKfQgUn7UNg]

-参考：映画『ブレッド・アンド・ローズ』（ケン・ローチ/英・独・西/2000）

▼Sí, se puede!
▼米国における都市サーヴィス産業の拡大と非合法移民労働力
▼ラティノスを取り締まる「移民法」と「国民」意識

だが、ネイティヴィズムの強さという観点からすれば、1970 年代以降の、メキシコを中心としたラテンアメリカ諸国からの非合法移民の急増がもたらした影響は計り知れない。ここでいう非合法移民とは、基本的に違法な入国ないしオーバーステイで法に違反した者たちであり、いわゆる刑事罰の対象となるような「犯罪性(criminality)」を体現した存在ではない。にもかかわらず、かれらがアメリカ社会に深刻な脅威をもたらす「問題」と捉えられたのは、陸続きの国境を大挙して渡ってくるのがラテンアメリカ出自の非白人移民だと観念されたことと不可分である。･･･非合法移民を多く含む「非白人」の新参者たるらぃーノ住民は、非＜アメリカ人＞的存在にほかならず、それゆえに＜アメリカ人＞としての国民性（ネイションフッド）を守るためには、非合法移民の流入やラティーノ人口の急速な拡大を管理・統制せねばならないとの機制が見いだされるからである。その意味で、「非合法移民問題」の解決に向けた移民法改編論議のなかでのせめぎ合いは、＜アメリカ人＞の境界をどこに引くかをめぐる攻防でもあった。[2]

■自由と生存のメーデー2008
-フリーター全般労組 PAFF
http://freeter-union.org/union/
☞資料配付「地球公論 light」

-サブプライムローンの破綻を理由にガソリンスタンドのバイト大量解雇→ユニオン結成→ガソリンスタンド占拠
ガソリンスタンドユニオン GSU
[http://freeter-union.org/gsu/]

🎥自由と生存のメーデー07～サウンドデモ　videopress
[http://www.youtube.com/watch?v=ebbEXlWBJXA]

■インディーズ系メーデー
-素人の乱（高円寺北中通り）
[http://trio4.nobody.jp/keita/]
🎥ECD×素人の乱('3"56)　（素人の乱の予告編）
[http://www.youtube.com/watch?v=U-5BYb9wAWo]
🎥ECD"言うこと聞くよな奴らじゃないぞ"@高円寺駅前 2007.4.15　（素人の乱での ECD レイヴ）
[http://www.youtube.com/watch?v=8RtNZXBk8cs]

-高円寺ニート組合
「家賃をタダにしろ！中野→高円寺一揆」
🎥「三人デモ」
[http://www.youtube.com/watch?v=-5NXX5zs5k4]

-フリーターユニオン福岡 fuf「われわれは社会のニョッキである」
[http://fufukuoka.web.fc2.com/]
☞資料配付「fuf 通信」

---

[1] ホセ・ラ・ルス、ポーラ・フィン「多様性の包括と真剣に取り組む：総合的なアプローチ」、グレゴリー・マンツィオス編、戸塚秀夫監訳『新世紀の労働運動：アメリカの実験』緑風出版 2001 年、pp.213-215。
[2] 村田勝幸『＜アメリカ人＞の境界とラティーノ・エスニシティ：「非合法移民問題」の社会文化史』東京大学出版会 2007 年、p.4。

▼生存権
すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。（日本国憲法第 25 条第 1 項）

▼ベーシック・インカム／基本所得
「全ての人は無条件で生活するためのお金を保障されるべきである」[3]
「生きさせろ！」（雨宮処凛）

▼保証所得
哲学的な横滑りをお許しいただけるなら、保証所得は、新たな存在論つまりマルチチュードの存在論を政治的かつ社会的に表現することの必要性に由来している。困窮・不安定・失業・賃労働は、われらがネオ・マルクス主義者によって定義された生産諸関係の限定から大きく溢れ出ていくこの「存在の生産性」の否-認の帰結なのである。何よりも肝要なのは、不安定さや困窮に対抗する政治なのではなく、共有財についての新たな構想なのである。この共有財が所有（物）の形態で資源化されるとしても、その際の基礎は、もはや希少性にあるのではなく、知識と情動の生産のダイナミクスに固有の「相互照射」にある、集団的所有と私的所有の対立をずらして再定義する協同にある。
保証所得は、組合の要求でもなければ、新たなレギュラシオンのためのスローガンでもない。反対に、保証所得は、経済的なものと政治的なものを区別することの不可能性を表している。というのも、保証所得が示す権利の新たな源泉とは、リベラリストにお馴染みの個人ではなく、社会主義者にお馴染みの労働でもなく、マルチチュードだからである。保証所得はある一つの権利であるが、市民権が国民や国家へと分かちがたい仕方で結び付けられているからには、この権利を市民権［=市民性、市民資格］に導入することは可能であるにしても難しいことである。保証所得は、国民国家の権力をさらに弱め、この権利と福祉の脱国民化に役立つとても優れた梃子なのである。保証所得は、資本主義的価値増殖の論理から逃れるために、また、マルチチュードの独立と自律を肯定し、国家空間に関して構成的エクソダスの条件を肯定するために奪取されるべき武器である。このマルチチュードの新たな流動性という武器は、惑星規模での感染に成功するなら効果的なものになりうるであろう。[4]

▼生活賃金 living wage
まず、第 1 に、この運動が主に都市自治体に照準をあわせた立法運動として組織されている、ということである。もちろん、州や連邦政府の動きを視野に入れていないわけではない。また、郡部に運動がないわけでもない。だが、都市自治体の行政に当面の的を絞っているのは積極的な理由があってのことである。それが都市住民の声が届きやすいところにあるというだけではなく、今日の民主主義、地方自治のたてまえの下では、その行政に対して影響力を行使しうる住民のルートが開かれている、ということである。州レベル、連邦レベルで強力に組織されている財界団体の経済的、政治的影響力が、貧困層を多く抱えた都市地方自治体レベルでは、さほど強力には組織されていない、という事情もあるにちがいない。ともあれ、この運動は、都市自治体の議会や首長の動きに焦点を合わせ、自治体財政の支出、とりわけその公的契約のあり方に住民の関心を呼び起こすという、世論組織化の運動として成立している。
第 2 に、この運動が貧しい人々の生存権を守ろう、という「社会的正義」の大義に共鳴する様々な NGO 組織や民衆の共働として組織されている、ということである。ここに収録された論文の中に頻繁に登場する「連合〔Coalition〕」や「連携〔Alliance〕」という言葉は、決して労働組合間のそれ、あるいは組合と政党のそれ、というような意味で使われているのではない。地域レベルで労働、住宅、環境、マイノリティーズ、高齢者問題などのテーマで動いている労働者、市民、学生、宗教家、法律家たちの諸団体が、この運動の中で出会い、その交流を通してまた新しい団体、たとえば地域の「持続可能な経済を考える」グループが生まれるというような、民衆の相互刺激、相互啓発の場として生活賃金運動が組織されていることに注意すべきであろう。収録されている第 2 論文が明らかにしているように、労働組合の既成の地域組織である AFL-CIO 地方労働組合評議会〔CLC〕が、この運動に貢献したところも多いが、必ずしも積極的に関わらなかったところも少なくなかった、という。むしろ、この生活賃金運動に一歩足を踏み出すことを契機に、既に組織された組合員へのサービスだけに専念しがちな伝統的な「ビジネス・ユニオン」の体質からの脱皮が迫られる、といってよいであろう。[5]

▼マルチチュード
▼プレカリアート

🎬おまけ：ザ・ハローワークス「ペイデイ」

---

[3] 「対談・ベーシック・インカムとはなにか」『VOL02』以文社 2007 年、p.5。
[4] マウリツィオ・ラッツラート著、中倉智徳訳「所得を保証すること：マルチチュードのための政治」『VOL02』2007 年以文社、pp.24-25。
[5] 戸塚秀夫「米国における生活賃金運動について：解題を兼ねて」ブックレット『労働運動の再構築は可能か：米国における生活賃金キャンペーンと労働組合・コミュニティ』国際労働研究センター2001 年。[http://www7a.biglobe.ne.jp/~ctls/booklet/kaidai.html]

■5 月 2 日
（3）「書を捨てよ街へ出よう」メーデー観察実習
※GW 期間を利用して旅行に出る人、沖縄に残る人、**それぞれのやり方**で、各地で起こっているメーデーを**観察**して来ること。教室に集まる必要はありません=集まってはいけません。観察の成果は 5 月 9 日提出のリアクションペーパーで報告してください。

※リアクションペーパー提出方法について（以下のいずれかで）
-5 月 9 日 4 限の講義終了時に手渡し。
-5 月 9 日深夜 24：00 までにメール添付：宛先☞　kosuzu@eve.u-ryukyu.ac.jp

※リアクションペーパーのガイドライン
-形式は基本的には自由とします。
-観察か、参加か、はたまた参与観察なのか。いずれにしても**「現場」**に居合わせることを重視します。
-分量は A4 用紙で 1 枚程度までを目安とします。**シンプルなものでよい**という意味で。
-映像・画像資料添付などヴィジュアル的工夫は歓迎されます。

［＜労働＞たとえばこんな参考文献］

ロビン・D・G・ケリー著『ゲットーを捏造する：アメリカにおける都市危機の表象』彩流社 2007 年。
高祖岩三郎『ニューヨーク烈伝：闘う世界民衆の都市空間』青土社 2006 年。
国際労働研究センター編著『社会運動ユニオニズム：アメリカの新しい労働運動』緑風出版 2005 年。
陣野俊史『フランス暴動：移民法とラップ・フランセ』河出書房 2006 年。
エティエンヌ・バリバール著、松葉祥一訳『市民権の哲学：民主主義における文化と政治』青土社 2000 年。
グレゴリー・マンツィオス編、戸塚秀夫監訳『新世紀の労働運動：アメリカの実験』緑風出版 2001 年。
村田勝幸『＜アメリカ人＞の境界とラティーノ・エスニシティ：「非合法移民問題」の社会文化史』東京大学出版会 2007 年。
DeMusik Inter.編『音の力：＜ストリート＞占拠編』インパクト出版会 2005 年。
『VOL02』以文社 2007 年。
『週刊金曜日』第 698 号（2008 年 4 月 11 日）特集「インディーズ系メーデーが熱い！」。